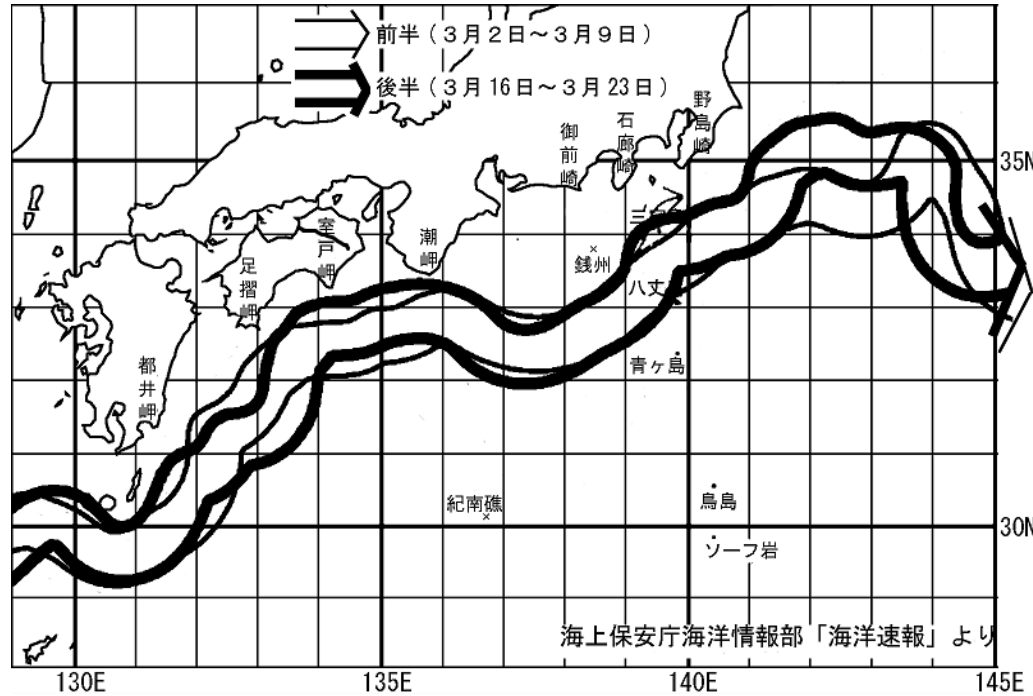


漁海況月報

平成 28 年 3 月 1 日

No. 3 ~3月31日

静岡県水産技術研究所
(電話 054-627-1815)
静岡県水産術研究所 伊豆分場
(電話 0558-22-0835)



3月定地水温の旬平均値() (下段は偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津	地頭方
上旬	14.6	15.5	14.9	16.2	14.8	14.8	12.8
	1.0	1.5	1.1	1.8	0.6	1.3	1.0
中旬	14.6	16.0	15.2	16.2	14.8	15.0	13.9
	0.8	1.7	1.2	1.5	0.1	1.1	1.5
下旬	15.2	15.8	15.8	16.4	15.4	15.5	14.8
	1.1	1.3	1.5	1.2	0.1	1.2	1.6
月	14.8	15.8	15.2	16.3	15.0	15.1	13.9
	1.0	1.5	1.3	1.5	0.2	1.2	1.4

【黒潮流路】

前半の黒潮は、遠州灘沖の32.5°N付近から北東に進み、八丈島北側を通過した後、房総半島に向けて北上した。後半は、遠州灘沖の小蛇行が東進した。遠州灘沖の32.4°N付近から北東に進み、八丈島と三宅島の間を通過した後、141°E付近に向けて東北東に向かい、北上した。

【県下沿岸域】

上旬は、相模湾側では「やや高め」から「高め」、駿河湾では「平年並」~「高め」であった。中旬は、相模湾側、駿河湾側共に「平年並」~「高め」であった。下旬は、相模湾側では「やや高め」から「高め」、駿河湾側では「やや低め」、駿河湾側では「平年並」~「やや高め」であった。

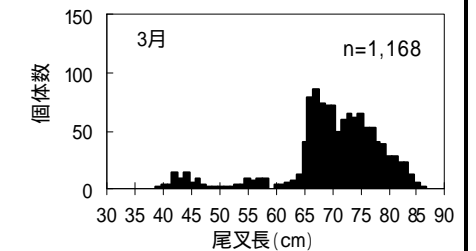
【竿釣カツオ】

3月の県内主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海竿釣り船によるカツオの水揚量は56トンで、前年同期の37%、過去5年平均の28%、現行の統計値としては平成2年以降で最低の数量であった。平均単価は344円/kgで前年同期を上回った。沿岸竿釣り船は下旬に1隻が出漁したが、キメジ主体の水揚げでカツオは僅かであった。

近海竿釣り船は、23~26°N、140~143°Eの中南海域で、特大(尾叉長67cmモード)や特々大(尾叉長73cmモード)のカツオを主体に漁獲した。

竿釣り(近海+沿岸船)カツオ水揚量(県内主要5港)

期間	水揚量(トン)	水揚隻数	平均水揚量/隻(トン)	平均単価(円/kg)
28年3月上旬	37	2	18.9	340
中旬	18	1	18.0	353
下旬	1	3	0.2	344
28年3月計	56	6	9.4	344
27年3月計	153	7	21.8	284
26年3月計	105	6	17.5	382



御前崎港における測定結果

【定置網】

伊豆半島東岸大型定置網7か統(伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)の水揚量は368トンで前年の同漁場の水揚量(654トン)の0.56倍であった。また、1か統あたりの水揚量は52.6トンで前年(93.5トン)の0.56倍、平年(昭和57~平成27年の平均54.3トン)の0.97倍であった。

7か統の魚種別水揚量は、ブリ、さば類、スルメイカ、イシダイ、サワラの順に多かった。ブリの水揚量198トンのうち、北川漁場が38%(76.1トン)、川奈漁場が31%(60.6トン)を占めた。さば類の水揚量134トンのうち、川奈漁場が33%(44.9トン)、富戸漁場が20%(27.4トン)を占めた。スルメイカの水揚量19.3トンのうち、北川漁場が30%(5.9トン)、富戸漁場が19%(3.7トン)を占めた。イシダイの水揚量2.9トンのうち、赤沢漁場が43%(1.2トン)、北川漁場および富戸漁場が20%(0.5トン)を占めた。サワラの水揚量2.6トンのうち、川奈漁場が86%(2.3トン)を占めた。

なお、ブリは銘柄ブリが主体で、前年比0.7倍、平年比5.0倍と、豊漁であった前年には劣るものの、好調な漁獲であった。銘柄わらさは、3月としては漁獲が多く、前年比1.6倍、平年比7.6倍であった。また、さば類についても、マサバは平年比2.4倍、ゴマサバは平年比4.3倍と好調な漁獲であった。一方、マイワシについては、例年3月は比較的漁獲量が多い傾向にあるが、今年は漁獲が無かった。

漁場別の水揚量では、川奈漁場が112トン(ブリ、さば類)、北川漁場が106トン(ブリ、さば類、スルメイカ)の順に多かった。

<参考表> 多獲された魚種の漁獲量と主な漁場

魚種	漁獲量(トン)	前年比	平年比	主な漁場
ブリ	198.0	0.7	5.3	北川、川奈、古網
さば類	134.0	1.4	4.3	川奈、富戸、北川
スルメイカ	19.3	0.5	0.9	北川、富戸、谷津
イシダイ	2.7	1.5	0.8	赤沢、北川、富戸
サワラ	2.6	3.4	1.9	川奈

[サバたもすくい棒受網]

小川港にはマサバが1,253トン(前年同月比185%)、ゴマサバが71トン(前年同月比118%)水揚げされ、1隻あたり水揚量はマサバ21.6トン(前年同月18.8トン)、ゴマサバ1.2トン(前年同月1.7トン)であった。1kgあたり平均単価はマサバ137円で前月(134円)前年同月(119円)を上回った。ゴマサバは110円で前月(114円)を下回り、前年同月(111円)とほぼ同額であった。

今月はたもすくいの操業のみで、月を通じて銭洲に漁場が形成された。マサバは尾叉長28cmにモードを持つ3歳魚主体、ゴマサバは33cmにモードを持つ3歳魚主体であった。

小川港 さば類(たもすくい・棒受網漁業)水揚量

期間	水揚量(ト)		水揚日数	水揚隻数	水揚/隻(ト)		単価(円/kg)		漁場
	マサバ	ゴマサバ			マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ	
28年3月上旬	130	1	2	5	26.1	0.3	145	137	銭洲
中旬	522	26	6	22	23.7	1.2	100	114	銭洲
下旬	601	44	9	31	19.4	1.4	168	107	銭洲
28年3月計	1,253	71	17	58	21.6	1.2	137	110	銭洲
27年3月	678	61	12	36	18.8	1.7	119	111	三本、銭洲
26年3月	293	13	8	24	12.2	0.5	229	110	三本

*水揚量は、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため月計と一致しないことがある。

[シラス船曳網]

シラス船曳網漁業は3月21日に解禁となった。1日1か統当りの水揚量は、駿河湾(静岡、吉田)が240kg、遠州灘(御前崎、福田、舞阪、新居)が456kgであった。主要6港平均の1日1か統当りの水揚量は383kgと前年同期(303kg)の127%、平年同期(過去5か年平均:285kg)の135%と前年同期、平年同期を上回った。また、総水揚量は295.5トンで前年同期(161.1トン)の184%、平年同期(95.2トン)の311%と、前年同期、平年同期ともに上回った。平均単価は614円/kgと、前年同期(598円/kg)は上回ったが、平年同期(743円/kg)は下回った。

シラス水揚量(主要6港)

漁港	水揚量(トン)	延日数	延統数	平均漁獲量(kg/統)	平均単価(円/kg)
新居	20.6	6	65	317	549
舞阪	87.7	6	220	398	595
福田	95.8	6	161	595	523
御前崎	29.6	6	66	448	792
吉田	21.3	6	120	177	921
静岡	41.0	7	140	293	609
平成28年3月計	295.9	37	772	383	614
平成27年3月計	161.1	28	532	303	598
平成26年3月計	27.9	16	215	130	871

*各港の数値は四捨五入しているため、各港合計と月計の値は一致しない場合がある。

*平年同期:過去5か年(平成23~27年)平均値

[まき網]

小川港のマイワシの水揚げは56.4トンで、平年同期(169.6トン)の33.3%、昨年同期(364.3トン)の15.5%であった。沼津港のマイワシの水揚げは70.5トンで、平年同期(248.8トン)の28.3%、昨年同期(710.6トン)の9.9%であった。静浦港のマイワシの水揚げは0.6トン(平年同期0.2トン、昨年同期の水揚げはなし)で、伊東港の水揚げは無かった。

カタクチイワシの水揚げは、小川港、沼津港、静浦港、伊東港で無かった。

なお、伊豆東岸定置網8か統の水揚げは、マイワシが無く、カタクチイワシが0.4トンであった。

*平年同期:過去5か年(平成23年~27年)平均値

[調査船駿河丸の動向]

3月 2日 ~ 3月 3日	地先定線観測調査	(2日間)
3月 8日 ~ 3月 9日	サバ標識放流調査	(2日間)
3月 16日 ~ 3月 17日	サクラエビ資源量調査(MOHT ネット)	(2日間)
3月 18日	観測機器作動確認	(1日間)
3月 22日 ~ 3月 23日	いわし類卵稚仔分布調査(ユーストネット)	(2日間)

静岡県水産技術研究所のホームページ

パソコンからは..... <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは..... <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星 NOAA の海面水温分布画像と関東・東海海況速報を見ることができます。

